

演題番号P42 ”喫煙ゼロプロジェクト”のとりくみ ～生徒への「禁煙支援」をきっかけとして～

福井恵美子、山田全啓(奈良県郡山保健所) 高橋裕子(奈良女子大学)

【はじめに】

郡山保健所では未成年者の喫煙をなくすことを目的に平成13年度より「喫煙防止対策推進連絡会議」(以下「連絡会議」)を設置し、喫煙防止に向けた取り組みを展開している。「早期からの効果的な喫煙防止教育の実施」「学校の敷地内禁煙化」「児童生徒への禁煙支援」を「対策の3本柱」として学校・親・地域・行政が連動した取り組みを管内の小・中学校、市町村、関係機関とともにすすめている。今回、T市立K中学校(以下「K中学校」)において「禁煙支援」をきっかけに「対策の3本柱」を「K中学校喫煙ゼロプロジェクト」として学校・T市とともに取り組んだ。その成果と今後の課題について報告する。

【経過と取り組み】

H16年度「連絡会議」委員としてK中学校がT市生徒指導主事部会の代表で参加したことがきっかけで保健所はK中学校より「生徒への禁煙支援」についての依頼を受けた。保健所は奈良女子大学高橋裕子教授に生徒の禁煙支援を依頼し、その生徒の禁煙支援をきっかけにK中学校の生徒の喫煙ゼロをめざした支援を開始した。K中学校では繰り返される生徒の喫煙に対して効果的な指導方法について模索していたところであり、「抜本的な喫煙防止対策の必要性」についての賛同がえられたため「喫煙ゼロプロジェクト」として学校を核としたプロジェクトをT市保健センターと連携のもと開始した。「K中学校喫煙ゼロプロジェクト」の概要は(表1)に、学校に対する「保健所の支援内容」は(表2)に示す。

(表1) 「喫煙ゼロプロジェクト」の概要

- |                          |
|--------------------------|
| 1) K中学校としての喫煙防止教育体系の確立   |
| 2) 学校・家庭・地域の禁煙化にむけた環境の整備 |
| 3) 禁煙外来を利用した禁煙支援の導入      |

(表2) 学校に対する保健所の支援内容

1) 「効果的な喫煙防止教育の実施」に向けた支援内容
①生徒の喫煙状況、たばこの害の認識の調査への参画・評価
②調査結果を基に教育指導案について学校と協議
③たばこの害に関する統計的なデータや視覚的な媒体の提供と喫煙防止教育の実施
2) 「学校・家庭・地域の禁煙化」に向けた支援内容
①学校職員に対する研修会の実施
②「敷地内禁煙」実施までのプロセス案の協議
③喫煙者の先生への禁煙支援(奈良女子大学・学校医と連携した禁煙支援・定期的な禁煙通信による情報提供と励まし)
④広報(学校ホームページ・保健所「こどものたばこゼロ通信」での広報)と周知ポスター作成
⑤家庭の喫煙状況調査への参画・評価
⑥PTA主催のバザーにおける禁煙啓発イベントの実施
⑦生徒の禁煙外来受診時、同伴した親への禁煙支援
3) 「生徒の禁煙」に向けた支援内容
①奈良女子大学との連携による生徒の禁煙支援
②養護教諭が禁煙指導の際に使える媒体などの情報提供

結果としてK中学校では各学年ごとの喫煙防止教育指導案が作成され、毎年、教育が実施されるようになった。プロジェクト開始前は100本ほどのたばこの吸い殻が校内で見つかることもあったがプロジェクト開始後は校内からたばこの吸い殻がなくなった。喫煙生徒に対してはH18年11月末までに実13名(延べ44名)の禁煙支援を実施した。その結果、プロジェクト開始前の喫煙率(K中男子12.4%、女子8.5%:cf県中学校男子1.8%女子1.1%)が、H18年3月末で男子3.1%女子1.1%になった。生徒とともに喫煙職員11名のうち7名が禁煙した。また平成17年4月から学校敷地内禁煙が実施され1年半以上経過した現在、K中学校の敷地内禁煙は定着してきている。また保護者の喫煙率は70.1%(H17年10月)から64.4%(H18年10月)に減少した。

【考察】

プロジェクトにより、生徒の喫煙率の低下、敷地内禁煙実現という結果につながった要因について次のように考える。

- ・保健所の「連絡会議」にK中学校が委員参加した事で「ニコチン依存に対しては禁煙支援が必要である」という知見をK中学校が認識していたこと。
- ・K中学校のプロジェクト推進メンバーは校長、教頭、生徒指導主事、養護教諭で各学年主任、担任も連動する動きになっており学校職員全体で取り組むという体制がとれたこと。
- ・抜本的な喫煙防止対策の必要性を学校が認識していたことで「生徒と職員がたばこの害に関する正しい情報を共有すること」、「学校の禁煙化を実現すること」、「当たり前で学校で禁煙支援が受けられるしくみを作り周知すること」の3つの取り組みが同時期に包括的に推進できたこと。
- ・禁煙支援において仲間おしで、または先生や保護者とペアで禁煙外来を受診できるしくみが奈良女子大学の協力でできたこと。

【まとめ】

K中学校では、生徒から「学校の雰囲気が変わった」「学校にたばこを持って行っても誰も喫煙場所に来なくなった」「一緒に吸う友達がやめたので自分もやめたい」等の声が聞かれており喫煙生徒が禁煙に向かう動機付けにつながる雰囲気が生徒間に広がってきた。しかし一方で再喫煙の問題も大きく再喫煙防止のためのしくみを学校と検討する必要がある。また家庭や地域で生徒の喫煙を容認する現状があったり、簡単にたばこを生徒が手に入れることができる状況がある中でとりわけ「家庭の禁煙化」に向けたアプローチが早急な課題である。喫煙生徒とペアで保護者が禁煙外来に受診したり、禁煙啓発イベントをきっかけに禁煙成功する保護者も出てくる中で、家庭の喫煙率が低下してきているが、学校保健委員会を核とした更なる推進が必要である。また地域全体へのアプローチとしてはK中学校区教育推進協議会での研修会、K中校区内の小学校の禁煙化、T市教育委員会、T市立病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、T市PTA協議会等との協働に向けた協議を進めているところである。今後も保健所として積極的に支援を展開してゆきたい。